

自信をもって販売するために、 GAPで生産工程を確認

高林農園では平成12年・18年からの販売先との連携をきっかけに、平成23年に販売先の支援を受けながら、H25年にGLOBALG.A.P.の団体認証を取得しました。

この一連の経過を経て、高林農園では作業記録データの管理を重視し200項目以上の農場管理を取り決めています。

自分たちの生産工程に不備が無いのか、ルールと現場を照らし合わせた安全の担保により、自信に繋がっているとのこと。

1 農場名：高林農園（安平町）

2 栽培面積：70ha

3 栽培品目（主要なもの）

水稲、小麦、大豆、てんさい、ばれいしょ、
スイートコーン、かぼちゃ、ごぼう

4 取得GAP・取得年

・GLOBALG.A.P.（団体・ばれいしょ・かぼちゃ）・H25年

5 GAP取り組みの経過

- ・平成12年にマルタ有機農業協同組合を通じて、ほうれんそう、アスパラガス販売（グリーンアイ）
- ・平成18年にHAL財団へばれいしょ、かぼちゃの出荷を開始
- ・平成23年にHAL財団の支援を受けGLOBALG.A.P.の取り組みを開始
- ・平成25年にHAL財団のグループ認証でGLOBALG.A.P.を取得

取り組み始めに『掲示の実施』、『救命講習受講』、『農薬散布時の装備の充実』を実施した。



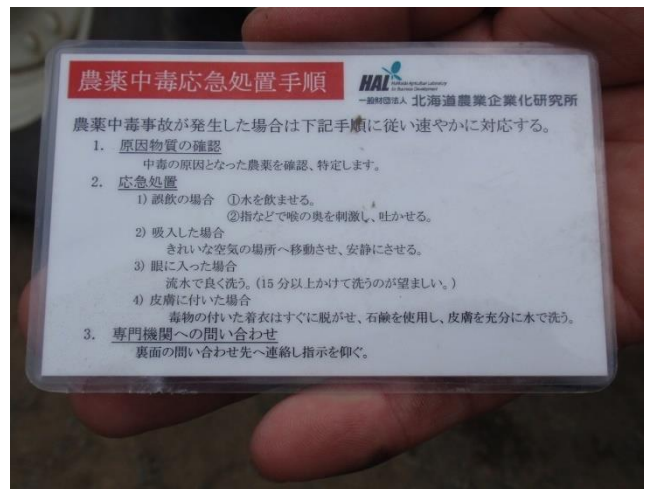
高林氏

6 農場の変化

- ・安全管理の考えを学び、会得することができた
- ・整理整頓の徹底で異物混入の不安が軽減した
- ・農薬の適正管理と利用が以前よりも進んだ
- ・作物への汚染や農薬ドリフトのリスクを軽減することができた
- ・適切な労務管理ができるようになった
- ・作業記録のデータ管理・生産工程の見える化による作業効率化と適正な在庫管理が進んだ
- ・取引先からの信頼を確保できた



【掲示物】



【農薬に関する応急処置手順を携帯】

7 苦勞したこと

有機認証、GLOBALGAP、JAのそれぞれの団体に対して、作業記録、労務管理、計数管理等の書類の作成を要することから、相応の労力が必要となる。共通した様式・システムで対応できないか模索中である。

8 これからGAPに取り組む人へ

高林さんにこれから取り組む人はどうしたら良いと思いますか？とお尋ねしたところ、次の2つのお話しを頂きました。

- ①認証を目指す場合には、仲間がいる中で取り組める団体認証等が良い
- ②事務方などGAPに取り組む専門の人材がいることも重要

GAPは農業者自身が経営をより良くするためのツールです。特に、労働安全・食品安全・環境保全面などの取組が見える化されることで、実践状況が確認できます。これを継続することで経営の変化も感じ取れます。農場の将来を考える機会には、GAPの取組を検討しましょう。

作成：胆振農業改良普及センター

問い合わせ先 TEL：0142-23-3195